

風しん第5期予防接種説明書

風しんワクチンの接種を受けられる方は、下記の注意事項をよく読んでいただき、接種の必要性や副反応について理解したうえで接種を受けてください。

また、接種を受けるにあたり、気にかかることや不明な点があれば、接種を受ける前に必ず担当の医師や看護師、境港市健康推進課に相談してください。

1. 予診票について

接種する前に記入する予診票は、予防接種の可否を判断するための大切な情報です。接種を受ける方が責任を持って記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

2. 風しんについて

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。感染経路は、「飛沫感染」で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。感染した場合は、約2～3週間後に発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。

症状は不顕性感染から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあるため、決して軽視はできない疾患です。

風しんに対する免疫が不十分な妊娠 20 週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、出生児が先天性風しん症候群(CRS)を発症する可能性があります。

3. 麻しん風しん混合(MR)ワクチンについて

麻しんウイルスと風しんウイルスを弱毒化して作ったワクチンです。ワクチンの効果は高く、接種を受けた人の95%以上が免疫を獲得することができます。

4. ワクチンの副反応について

主な副反応は、発熱と発疹、局所症状(疼痛、腫脹、硬結、熱感等)です。稀にみられる副反応としては、アナフィラキシーという重いアレルギー反応、血小板減少性紫斑病、脳炎等があります。

5. 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱(37.5℃以上)している人。
- ② 重い急性疾患にかかっている人。
- ③ 予防接種の成分に対して、アナフィラキシー(通常接種後約30分以内に起こる呼吸困難や全身のじんましんなどを伴うひどいアレルギー反応)を起こしたことがある人。
- ④ その他、医師が不相当と判断した場合。

6. 予防接種を受ける際に医師との相談が必要な人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患などの基礎疾患がある人。
- ② 以前に受けた予防接種で、接種後2日以内に発熱がみられた人及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常がみられた人。
- ③ 今までにけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある人。
- ④ 今までに免疫状態の異常を指摘されたことがある人もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- ⑤ この予防接種の成分に対して、アレルギーを起こすおそれがある人。

7. 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、副反応が起こることがあります。医師(医療機関)とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 予防接種後に高熱やけいれんなどの異常があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすらないようにしましょう。
- ④ 接種当日は、激しい運動や過度の飲酒は避けてください。
- ⑤ このワクチン接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。

8. 予防接種健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、国の審査会にて審議します。審査会で予防接種によるものと認定された場合は、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

<お問合せ先>

境港市福祉保健部 健康推進課

(電話) 0859-47-1041・1042